

「人がしばしば行く場所」「魂を甦らせること」「自分がよくいる場所」「自分を取り戻すこと」「お気に入りの時間」「元いた場所に帰ること」…。巷間言われる、「リゾート」の語源とされる数々の定義である。

17世紀、戦いに敗れた英国王チャールズ二世が生気を回復したのは、ポスコベルの森の、オークの木の下。再び王冠を手にしたとき、その癒しの木は敬意を込めて「ロイヤルオーク」と名付けられた。このとき、王にとつてのリゾートとは、「自分を取り戻すこと」であったろうか…。

16年前、滋賀県大津市は萱野浦(かやのうら)という地に、「ロイヤルオークホテル」はできた。ほほ時を同じくして近江大橋を挟んだ対岸、大津市におの浜に「大津プリンスホテル」が開業し、ヨーロッパスタイルとアメリカンスタイルのホテルが琵琶湖を跨いで、その雄姿を並べたのである。

折しも関東では天王洲や浦安など、湾岸開発の波を受け、世間では「ウォーターフロント」という言葉が流行していた。特に萱野浦では、それにあやかっ「瀬田ウォーターフロント」なる言葉も使われたものだが、その中心にはロイヤルオークホテルがあった。事実、同ホテルの周りに飲食店や雑貨店、複合商業施設が続々と建った。

語源の話もあるのだが、「リゾート」という言葉は、世代によって様々な捉え方をされるので、一度この言葉を忘れてみる。本来、同ホテルが目指しているのは何か？それは「観光の足場」ではなく、ホテルが「旅の目的地」となることである。では「旅」とは何か？旅する側はもちろん、旅される側にも同じように、捉え方は色々ある。同ホテルが考える旅とは、ホテルでまる一日ゆっくり過ごすことである。ホテルの界隈をゆっくり歩いてみるのも良いだろう。どちらかというと、



「屋内の開放感」を感じて食事を

**KYOTO  
Technical  
Site**

取材・文/竹中 聡(本誌)  
撮影/山崎吳治

Cafe de l'abbaye/カフェ ドゥ・ラバエイ

これまでは喫茶の要素のみであったが、吹き抜けを眺めながら食事ができるレストランとして生まれ変わった。宿泊時にもありがたいブレックファーストも用意している  
●7:00~22:00 ☎077-543-9102

*Regain you true  
Just like ancient king*

そこに居ることが、大切なことである。  
いにしえの王が、そうであったように。

ROYAL OAK HOTEL SPA & GARDENS 滋賀県大津市萱野浦23番地1号 077-543-0111 (代) <http://www.royaloakhotel.co.jp>

「自分を取り戻す」…。チャールズ二世が二度目に王冠をその手にしたとき、入城したのはロンドンであるという。それはどのような城だったか。緑濃き木々、碧深き水をたたえた城であったなら、こんなホテルに似ていたかもしれないという気がするのだが、いかがだろうか。

京都市内にも豪華なホテルは数多くある。同ホテルの建物の高さは5階建て。誰もが見慣れたホテルと比較すれば、明らかに低層であろう。だが不思議なことは何もない。背の高い姿は必要ないのだ。建物自体、八角形の独特な形状をしていてユニークなのだが、それよりも何よりも、その建物が大切に抱くように囲んでいる7種類のガーデンが、また手がけられた場所である。新たに加えられたスパも、美や健康を育む料理という視点にこだわりの、リニューアルされたレストランの数々も、心ときめくものではある。だが最終的な目的は、そのときめきを鎮め、心静かに深く呼吸し、深く眠ることである。

開業以来、初めてとなる大改装は、足場型の性格を「足す」のではなく、本来持っていた「大いなる休息の場」というテーマを、「より色濃く、深く」するものであった。

その同ホテルが、去る11月1日に「ロイヤルオークホテルSPA&ガーデンズ」リニューアルグランドオープンで大々的に行なった。5階部分の客室は全て造り替え、6パターンで11室のスイートルームを用意した。さらに、これまではあまり高ランクではなかった2階の客室も新たに、プライベートテラスと専用屋外バスを持たせるといってグレードアップを果たした。こうなると、「このホテルで一番良い部屋を」というオーダーが一番困るのではないか。そんな要らぬ心配をするほどである。他にも、SPAはそれだけで今コーナーと同じ紙幅を費やしてご紹介できるほどの設備を整えているし、レストランにもずいぶん手が入っている。

パッケージ型の旅が似合う場所ではない。潤沢な時間をホテルを中心に使う。それは現在のホテル業界のグローバルスタンダードのひとつと言え、今でこそよく耳にするようになったスタンズだが、同ホテルは開業当初から長期滞在型という性格を持っていた。



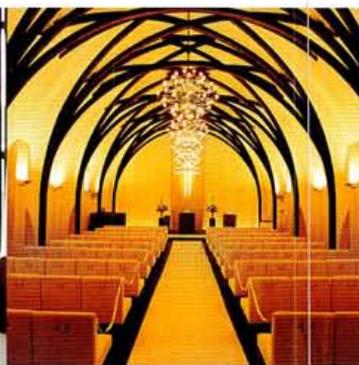
01. 湖畔に、もっとも近い場所にて



02. 特別な日には、憧れのスイートへ



03. 爽やかな風が、祝福を運んでくる



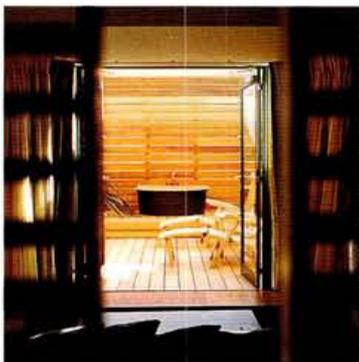
04. 新しいウェディングのスタンダード



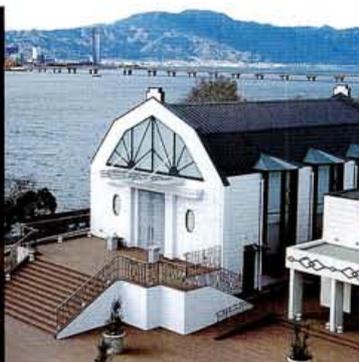
05. このホテルは、常に自然とともにある



06. 庭と、光と、遠くて近き異国の香



07. テラスとバスを眺めながらまどろむ幸せ



08. 空の青と、山の緑と、湖の碧と



09. 崩れ落ちるようなリラクゼーション

ステーキ ISHIYAMA / ステーキ 石山

01.

琵琶湖側の1Fにあり、湖周道路を挟んですぐ目の前が湖面。カップルや2~3人での利用ならカウンターを選びたい。コースは昼夜それぞれ3465円~/9240円~  
●11:30~14:30 17:00~21:30 ☎077-543-9116

ジュニアスイート

02.

5階ロイヤルフロアにある一室。同タイプは2部屋あり、1泊60060円(税サ込み)。同フロアは11部屋のスイートと40部屋のツイン/キングのルームタイプで構成される

ル・ヴァンヴェール

03.

チャペルに隣接するテラス付きパーティールーム。正餐で110名、立食なら150名までのパーティが可能。もちろんこの他にも大小取り混ぜて9種類のパーティールームがある

リンデンバウム

04.

同ホテルではアトリウムウェディングが今も人気なのだが、新築されたチャペル「リンデンバウム」でさらに幅が広がった。100名収容できる立派なチャペルである

ガーデン

05.

ホテルの内側にあるガーデン。主に「Monet's」「White」「English」「Nature」の4つに分かれ、写真はネイチャーガーデン。もちろん中庭でのガーデンウェディングも人気

中国菜 湖園 / ちゅうごくさい ふうえん

06.

人気の中国料理も内装を一新。本誌でもお馴染みの木村英輝さんの絵画が「ステーキISHIYAMA」と同様に壁面を飾っている。コースは昼夜それぞれ2310円~/6930円~  
●11:30~14:30 17:00~21:30 ☎077-543-9126

ラグジュアリーキング

07.

これが本文中にあるもう一つの目玉。プライベートテラスと屋外バスがついた部屋はスイートタイプを含め4室あり、写真の部屋は1泊55440円(税サ込み)

SKY & LAKE & HOTEL

08.

客室からチャペルとパーティールームの外観を望んだ様子。ル・ヴァンヴェールのドアを開放して、デッキ部分にテーブルを出してハウスウェディング風な演出もできる

ROYAL OAK SPA / ロイヤルオークSPA

09.

写真はスパ施設内のリラクゼーションルーム。足を踏み入れるだけで足から崩れ落ちそうになるほどリラックスできる。スパとフィットネスだけで間違いなく1日過ごせる  
●7:30~22:00(日祝~20:00) ☎077-543-9111